



ビンフォールド夫妻 I

8月4日（火）

下妻一高の北側にある入り組んだ路地の突き当りに赤く塗られた木造2階建ての建物があります。建物の入り口には石碑があり、レリーフには”LIVED FOR OTHERS”と記されています。碑文をそのまま紹介します。

ビンフォールド夫妻は、日本がようやく近代国家の道を歩み始めた明治初期に来日され、茨城県下のキリスト教開拓伝道に献身すること三十七年に及んだ。

未だ封建思想の満ちている水戸の地で開拓伝道をするには、荒野を耕して種子を播くようなものであった。その勇気と熱情は、アメリカ大陸の開拓時代に英国から移住したビンフォールド家に伝わる精神なのだろうか。



水戸伝道二十三年の経験を通して拓かれた下妻伝道十四年こそ正に「大草原の小さな家」を連想させる風景であった。田園の中に洋風の二階家が建った。近くの旧制中学の英語の教師を招く、街の婦人、中学生、農村の青年たちによって英語勉強会、料理教室、バイブルクラス、農村青年修養会などのグループ活動が展開された。文明から離れている地方の人々にとってご夫妻の行動は、全くキリスト教であり西洋文化であった。

わけても一九二七年創立の下妻小友幼稚園は、エリザベス夫人の発想によるもので、幼児教育の先駆者としてその功績は特記しなければならない。

キリスト教派の中でもキリスト友会（別名フレンド派）は、日本の禅に共通するものがある。沈黙の礼拝、簡素な生活、霊的な感話、対外的な奉仕活動、殊に平和運動は一九四七年ノーベル平和賞がフレンド奉仕団に与えられるなど、その本領を発揮している。

伝道師の任と伝道の重責を果たされたご夫妻は、一九三六年（昭和十一年）十月、茨城県知事、下妻町長の感謝状を受け、下妻駅頭では群れなす町民の見送るうちに、多くの足跡を残し下妻の地を離れた。

時が移るもご夫妻の遺風忘れ難くここに記念碑を建立し、その人間的魅力を後世に伝えることとした。

稀に見る崇高な生涯を墓碑銘に、米国ロス郊外ローズヒルにある石碑の文字をもって信仰者として使命感を鮮明し、気品に富む温厚な容姿を彫像にした所以に、ご夫妻の人間愛に捧げる賛歌である。

一九九九年六月 宗教法人キリスト友会下妻月会